

これまでの採用句

初折表

発句	歌いざや渡り行く橋虹の橋	宜博	夏
脇句	瑞山高み茂る言の葉	市長	夏
第三句	いくたびも吉事を願ふ仰ぎ見て	良哲	雑
第四句	飛び立つ鳥は思いを運ぶ	茉悠花	雑
第五句	蹲も厨の甕も秋の水	由貴子	秋
第六句	糸竹の音を断つ鹿威し	敏江	秋
第七句	雨落つや雲間に揺るる宵の月	栗璃	秋
第八句	旅人一人道を急げる	均	雑

初折裏

第一句	これからに思ひを馳せる広野にて	美乃里	雑
第二句	静かに生きる冬董あり	彩琴	冬
第三句	さざ波の寄せてはかへす須磨明石	善帆	雑
第四句	逢瀬の記憶ただうち嘆く	美桜	雑
第五句	背を向けし君は何処ぞ木の葉笛	浩子	雑
第六句	心乱れて山路さ迷ふ	由紀子	雑
第七句	同行の彼方頼みに幾年ぞ	翠	雑
第八句	風鈴が鳴る半月の夜	夕希	夏
第九句	一筋の光さしたる走馬灯	美月	夏
第十句	ただひたすらに歩みゆく道	英司	雑
第十一句	疫なき世共に叶えむ寄り添はむ	妙子	雑
第十二句	逝きしみたまへ甘茶供へむ	ヨシ子	春
第十三句	子らの声舞ふや吹雪の花は八重	康一	春
第十四句	うららかにあれ国の内外	かおる	春

